

# 神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490  
FAX (078) 361-4539  
http://nssk-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

## 今年の標語

「来てみませんか？」と誘える教会を目指そう。

## 努力目標

- ◎信仰的学びの機会を増やす。
- ◎地域との交流促進。
- ◎神戸昇天教会リーフレットの作成。

**聖語** 喜ぶ人とともに喜び、泣く人とともに泣きなさい。(ロマ12:15)

## 教会を守る苦勞

～小さな教会を訪れ、知る機会を得て～

「自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである」(ルカによる福音書9:23-24)

司祭 ミカエル 小南 晃

先月6月は、16日(日)に神戸・徳島伝道区合同説教者交換があり、私はこの日、鳴門聖パウロ教会に参りました。翌週の23日(日)は、鳥取聖ルカ教会に礼拝支援ということで参りました。またこの間の週に、松山市で開催された教役者修養会に参加することになりました。

修養会では、大洲聖公会信徒で郷土史研究者である、村上恒夫兄による、「伊予のキリスト教史を学ぶ」というテーマで講話をお聞きすることになりました。

村上兄は、坂本龍馬が土佐藩を脱藩した時の道筋を解明された方ですが、修養会講話では、大洲、松山のキリスト教史について、16世紀のキリスト教伝来から禁教時代のキリシタン迫害、そして明治以降のキリスト教の宣教、大洲聖公会の創立などをお話し頂きました。

6月16日から23日という短い期間に、鳴門聖パウロ教会、大洲聖公会、そして鳥取聖ルカ教会と、神戸教区内で無牧で小さな教会を訪れ、また知る機会が与えられました。

### 草刈りの苦勞

まず説教者交換で参った鳴門聖パウロ教会について、この教会は、私にとって最初の赴任地でした。約30年前のことであり、いつの間にそんなに時間が経ったのかと思わずにはられませんでした。

礼拝堂は老朽化したために取り壊して、会館・牧師館の集会室を礼拝堂にされています。その際に、境内をすべてアスファルト敷きにしたかったが、資金的に適わず、夏場は草刈りに苦勞しているというお話をお聞きしました。

翌月曜日から水曜日まで、先ほど申したように修養会で村上兄の講話をお聞きしました。今は小さくなってしまった大洲聖公会ですが、愛媛の聖公会の宣教はここから始まり、この教会を拠点として松山の教会が創立されたこと、そして「戦前、戦中の困難な時代、無牧状態が続くなか、教会を守った先達の話をしてくださいました。当時もやはり無牧となった教会境内の草刈りが大変で、村上兄

も子供心に、教会と言えば草刈りという印象が強く残っているということでした。

### 教会のために重荷を負う

小さな教会、しかもこの先、高齢化で信徒はさらに減ることが予測される教会では、この草刈りに代表されるように、残った者にかかる苦勞が増えてくるのは確かです。また、やがては立ち行かなくなると思われる教会で、教会生活を守ることを意味を疑いたくなることもあるかも知れません。しかしそこにこそ、私たちの思いを越えた神様の用いられ方があるのではないのでしょうか。

「教会があるばっかりに」、「信徒であるばっかりに」背負わなければならない苦勞を忍ぶ時、そこに「わたしのために命を失うものは、それを救うのである」との主イエス・キリストの御言葉が響いているのではないのでしょうか。

この度、小さな教会を訪れ、或いは知る機会を与えられて、改めて教会のために汗臭く、泥臭く、一見無意味に思える重荷を背負って行く時に、信仰の持つ本来の輝きが増して来るのではないかと思った次第です。

## 定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式  
" 9時15分 教会学校  
" 10時30分 聖餐式・説教  
午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会  
土 午前10時30分 教会掃除  
(ご奉仕をお願いします)